

# 平成29年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈智音園

## 1. <<大慈智音園基本方針>>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する。

## 2. <<最終目標>>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

## 3. <<ケア部門>>

### ①個々の生活リズムに合わせた日常サービスの提供

今年度よりフロア単位での会議をユニット単位へと変更した。個々のゲストの生活リズムやサポートの内容等を細かく話し合い、『智音園版24時間シート』へ反映している。また、リーダー会議にて前年度から使用しているフォーマットに大きな修正を加え、新人職員や異動職員がスムーズに業務を行えるように工夫をした。ユニットケアの確立や推進を目指し、ユニットリーダー研修へは2名参加した。ユニットケアの理念や手法を学び、得た知識を他職員へ伝えている。研修としての職員の異動は行えなかったが、リーダーを含め、職員のフロア異動は定期的に実施した。該当職員から異動後に感じた、フロア間での違いや差を気付きとして集めた。今後は、日誌への記載内容を始めとした引継ぎ方法や使用物品の違いを改善・統一していく。

次年度においては、全ゲストの24時間シートを完成させ、作成～実行～評価～内容の修正・改善～実行の流れを確立したい。

### ②定期的な全体レクリエーションの創設（月2回以上の実施）

月2回のリーダー会議にて誕生者外食・外出行事を立案し、計画を立てている。各リーダーに月別で担当責任者を割り振り、計画から実施までの流れをシステム化することができている。結果、全フロア合同での外出・外食行事を毎月実施することができた。次年度においては、計画書作成から各部署への回覧、周知においてもシステムを構築したい。前年度に続き、園内行事においてもご家族様参加型の「智音祭り～笑点～」を開催。雨天ではあったが、ゲスト・ご家族様・職員が楽しい時間を共に過ごすことができた。次年度も園内行事・園外行事共に内容の充実・質の向上を目指したい。

### ③遠藤メソッドへの取り組み

毎月のパトロール結果や苦情報告書・事故報告書などから課題を抽出し、介護技術標準の作成を続けている。また、作成したものを全リーダーで確認し、修正や訂正を行い、情

報を共有している。委員会や会議・日常の業務の中で「遠藤メソッド」や「介護技術標準」というワードが頻繁に出てくるようになっており、遠藤メソッドの考えが定着しつつあると考える。また、技術標準を指導や育成に積極的に活かすことで事故件数の減少にもつながり、効果もみえ始めている。全職員で技術標準を守ろうとする意識が徐々に芽生え出し始めていると感じる。次年度は技術標準を作成出来る職員を増やし、作成数を増やしたい。

#### 4. <経営部門>

##### ①充足率の向上(目標：充足率96%)

充足率は97.5%と目標を達成することができた。申し込みがあれば、早い段階で面接を行い状態を確認しに行くことで待機者を2名以上置くことができた。

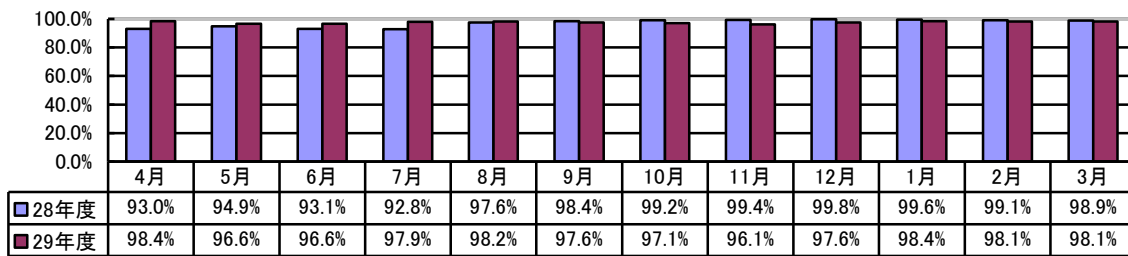
##### ②加算取得

研修受講した者の退職等はあるが計画の元、随時、研修に参加しており、平成32年度からの加算を検討している。

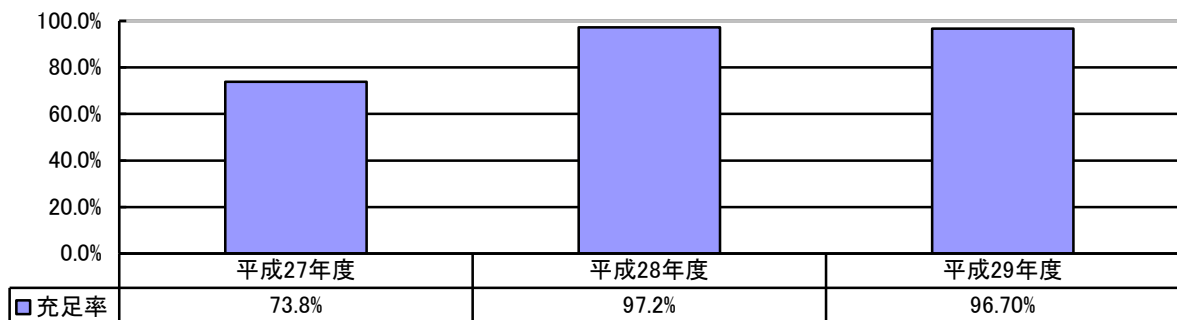
##### ③地域貢献事業の実施

地蔵盆へのお供えのほか、施設周辺の清掃活動を行った。

#### ●平成29年度月別充足率表



#### ●※1 年度月別充足率推移 (%)



#### ●※2 入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 28年度	18	4	20	16	12	16
② 29年度	13	3	27	19	9	12
増減②-①	-5	-1	7	3	-3	-4

●介護度別年齢別等人数表

平成30年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間25ヶ月（男性25ヶ月、女性25ヶ月）

最高滞在期間35ヶ月

要介護度	平成28年度				平成29年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0		0	0	0	
2	0	0	0		1	0	1	95歳
3	18	5	13	84.2歳	17	3	14	84.1歳
4	32	6	26	88.6歳	34	8	26	88.7歳
5	20	7	32	88.5歳	18	7	11	86.5歳
合計	70	18	52		70	18	52	
平均介護度		4.11	4.0	4.03		4.2	3.9	4
平均年齢		86.8歳	87.6歳	87.4歳		85.6歳	87.6歳	87.1歳
最高年齢		97歳	101歳			98歳	97歳	
最小年齢		65歳	65歳			66歳	66歳	

5. <<看護部門>>

『ゲストが健康で穏やかな生活が送れるように支援してゆく』

①配薬体制の整備

複数人でのチェック体制を確立し、配薬・準備に間違いがないように努めた。今後も方法はその都度検討が必要であると考えます。

②職種連携を図り褥瘡形成を予防する

現場職員からの情報があれば、確認し、話し合い、方法を検討することで褥瘡予防に努めることができた。褥瘡には至らず、未然に防ぐことができた。

<年間業務>

月	項目	内容
4月	ゲスト定期検診	採血
6月	全職員定期検診	胸部X線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎X線（CWのみ）等
8月	ゲスト定期健診	胸部X線
10月	全職員	インフルエンザ予防接種
11月	ゲスト	インフルエンザ予防接種
	ゲスト・介護職員定期検診	胸部X線 採血等

5. <<栄養科>>

①大慈厚生事業会老人部門の栄養科のレベルアップを図る

A) 老人部門栄養科会議を開催する（年4回以上）

B) 交換研修の実施

C) 栄養士全員（調理師含む）による給食行事を執り行う

老人部門栄養科会議を通じ、各施設の業務の報告・連絡・相談を行い、現状の課題・問

題点について検討と改善を行った。学びたい題材の発表では、「ムース食とゼリー食の違い」「ソフト食・スルー食の使用する食材について」「トロミ剤の特性」について行った。勉強に取り組み、相手に内容を分かりやすく伝えることで相互の理解が深まった。交換研修では、業務内容の違いから自分たちの仕事を客観的にみることができ、よい刺激となった。書式の共有やシステム作りに取り組み、自施設に持ち帰ることができた。給食行事では行事の当日に栄養士・調理師の人員が増えることで、通常の食事行事と比べ、より細やかな栄養士としてのサポートができた。

②栄養ケアマネジメントの書式変更を行う

A) ゲスト個々の状態を栄養ケアマネジメントに活かせる書式の検討

B) 書式の確定と活用

給食委員会や老人部門栄養科会議の中で書式の内容について検討を重ね、更新を行った。また、使用中で改良を加えながら、完成をさせることができた。他施設とも共有し、活用できている。

●年間行事食

<年間園内及び食事行事>

月	年間行事	月	年間行事
4月	花見	10月	秋祭り
5月	母の日	11月	刺身、秋の味覚
6月	父の日	12月	クリスマス、年越しそば
7月	七夕	1月	おせち、七草粥、鏡開き
8月	おいしい肉	2月	節分、バレンタイン
9月	敬老	3月	ひな祭り、刺身、プリンアラモード作り

6. <<外出行事等の実施内容・反省点>>

日付	行事名
4月3日	お花見外出(淡路島)
4月11日	イズミヤ神戸西店へ買い物
5月18日	太山寺なでこの湯へ外出
6月5日	ろうごの日のつどい
6月6日	智音園近くのローソンへ買い物
6月16日	神戸市立須磨海浜水族園へ外出
7月25日	神戸ハーバーランドへ外出
8月5日	みなとこうべ花火大会へ外出
9月15日	神戸どうぶつ王国へ外出
9月20日	お墓参りへ外出
10月11日	にこにこ園と交流&会食へ外出
10月13日	イオン明石店へ外出
11月13日	明石駅周辺散策へ外出
12月11日	神戸ハーバーランド
1月4日	岩屋神社初詣へ外出
2月13日	大衆劇場 明石ほんまち三白館へ外出
3月23日	イオン明石店へ外出
毎月	誕生者外食

7. 《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名				
月1回	リスクマネジメント委員会	感染症防止対策委員会	非常災害時対策委員会	給食・行事委員会	看取り・褥瘡委員会
	フロア会議	知音会議	ケアカンファレンス		
月2回	リーダー会議				
随時	人事検討委員会				

日付	研修会内容	参加人数
5/31	急変時・緊急時の対応・流れについて	31名
6/28	嘔吐処理マニュアルについて、コミュニケーション技法	18名
7/26	看取り・褥瘡	16名
9/27	虐待研修	35名
10/25	虐待研修	19名
11/22	感染症基礎知識	18名
1/24	車椅子・ベッドでのポジショニングについて	22名
3/28	昇級者発表、看取りに必要な知識と技術について、コミュニケーション技法	14名

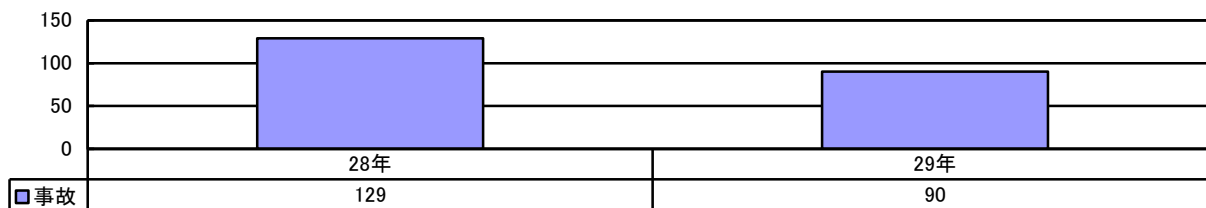
8. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

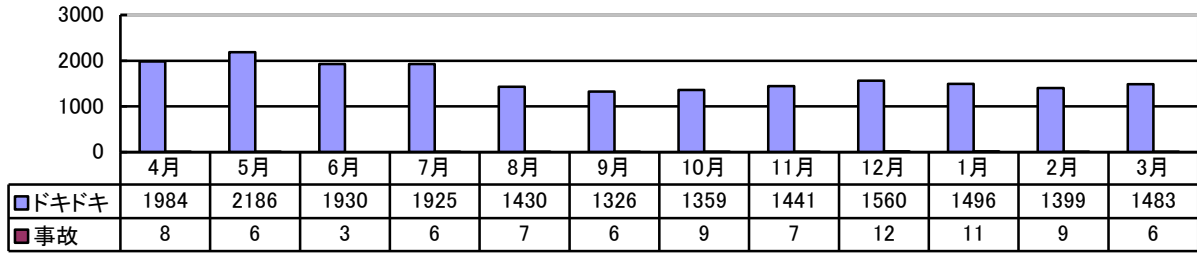
前年度と比較すると、ドキドキ及び事故件数ともに減少している。リスクマネジメント委員会を中心として、事故内容の情報共有・対策の評価を続けており、委員会が機能していると手応えを感じる。

年度別事故件数

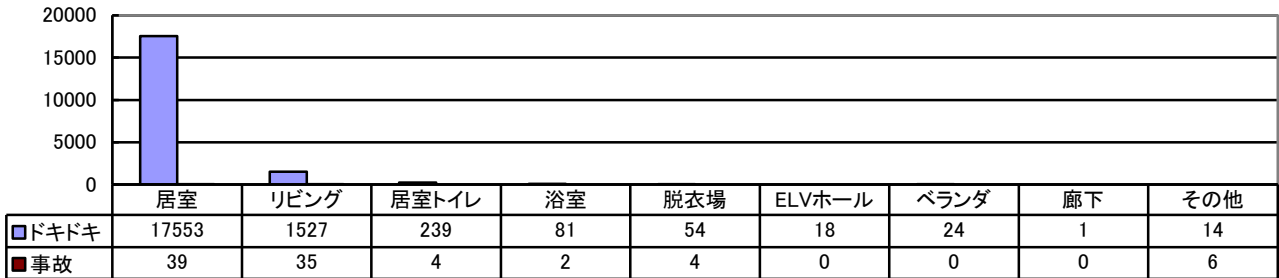


報告件数	平成28年度			平成29年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	23,978件	129件	23,849件		19,609件	90件	19,519件

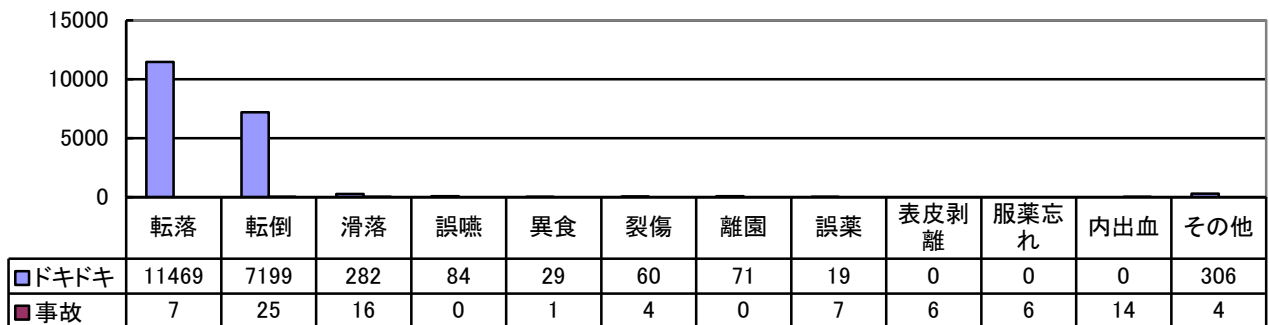
月別件数



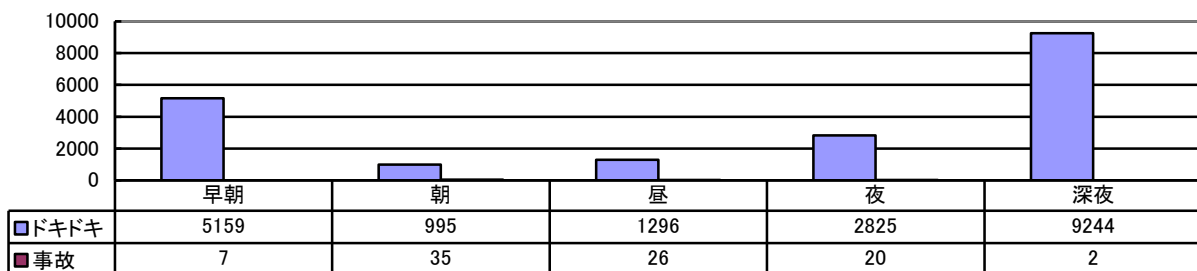
②発生場所別件数



③発生内容別件数



④時間帯別件数



⑤まとめ

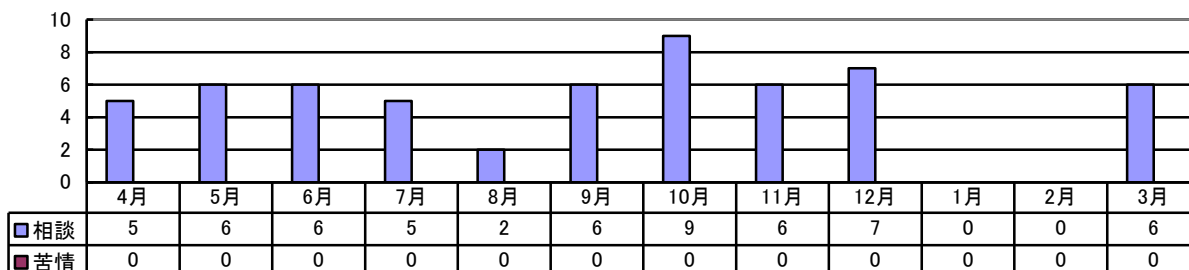
ドキドキ・事故報告件数が前年度と比べ、大きく減少している。しかし、ヒューマンエラーにより発生した事故や防ぐことが可能であった事故は多い。特に誤薬や未服薬事故について件数は減少したものの、頻度としては、全フロアにて定期的に発生している。介護技術標準にて守るべきことを決めてはいるが、守れているという確認作業が不足しており、改善を目指したい。職員のユニット固定を続け、ゲスト個々の生活リズムを細かく把握すると共に職員の責任感を植え付けていく必要がある。

9. 《苦情・相談結果報告》

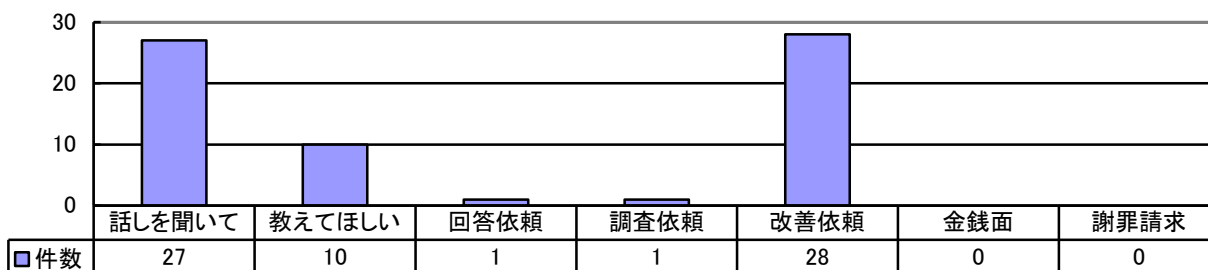
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

●報告件数

平成 28 年度				平成 29 年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
		52 件	2 件		50 件		58 件



要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

●主な内容

話を聞いてほしいだけの相談から認知症を有するゲストからの被害的な言葉やトラブルなど様々な内容がある。職員のちょっとした配慮不足や説明不足から発生しているものも多い。

●まとめ

特定のご家族からご指摘を頂くことも多く、情報を共有し、同じ内容が上がらないように今後も努めていく。ご家族との関係を密にし、情報交換を行うことで小さな相談で終わるように心がけていく。

10. 《総括》

今年度の目標を達成することができた。達成をすることができたのは、全体の指示系統が確立され、情報の共有、報告、連絡、相談ができるようになったからである。ユニットに職員を固定し、24時間シートを作成することで、アセスメントをしっかりと行い、一人一人と向き合う時間ができサービスの内容を確認し、サービスの質の向上にもつなげることができた。遠藤メソッドに取り組むことで、課題とも気付いていなかったことが把握できるようになった。以前は、ニュアンスで伝えるバラバラの指導方法であったが、介護技術標準を作成するために話し合うことで、伝える側の意識の変化を大きく感じられた。今後は、介護技術標準の浸透と人材の育成、離職率の低下、地域への貢献に力を入れていきたい。